



全国保育士養成協議会東北ブロック

2020年度 第2回
保育士養成教科目の教授法研究会

2020.4.30.
永井 久美子（ながい くみこ）

今日に至るまで・・・

- **3月6日（金）** 保育実習Ⅰが中止となる。
 - **3月12日（木）** 「危機対策本部」が立ち上がる。
 - **3月17日（火）** 初めて学長の口から「Zoom」というワードが・・・。
 - FBグループ「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」へお誘いを受けた頃（3月末）は、約200名だったが、現在は約1万7000名が、このFBグループに入っている状況。教育関係者の関心の高さがうかがえる。
- ⇒どうすれば、効果的な授業が実施できるかを考える上で、とても参考になった。

4月1日（水）時点、

- **まだ、この時点では、オリエンテーションを開催（4月13日（月）4月14日（火））**
予定。
- **授業開始日は、4月20日（月）となった。**

Step 1

- **授業実施方法の選択**
(1) 休講・補講 < (2) ~ (4) が選択できない場合 >
(2) メディア授業（遠隔授業）
(3) 授業クラスを分割して、通常授業（面接授業）
(4) 通常授業（面接授業）

Step2

- 授業実施方法の決定

Step3

- シラバスの修正

Step4

- 授業科目ごとの授業実施方法の学生への連絡

(4月1日(水)・4月9日(木)に、zoom操作手順に関する研修会実施。)

利用できるシステム

- (1) Zoom meeting<同時双方向型>
- (2) manaba（動画を含む）<オンデマンド型（インターネット方式）>
- (3) Zoom Webinar + manaba<同時双方向型（テレビ会議方式等）>

4月9日（木）時点

（私は、やっと重い腰を上げ、機器類を購入。その時には、既にWebカメラ等が品薄状態。）

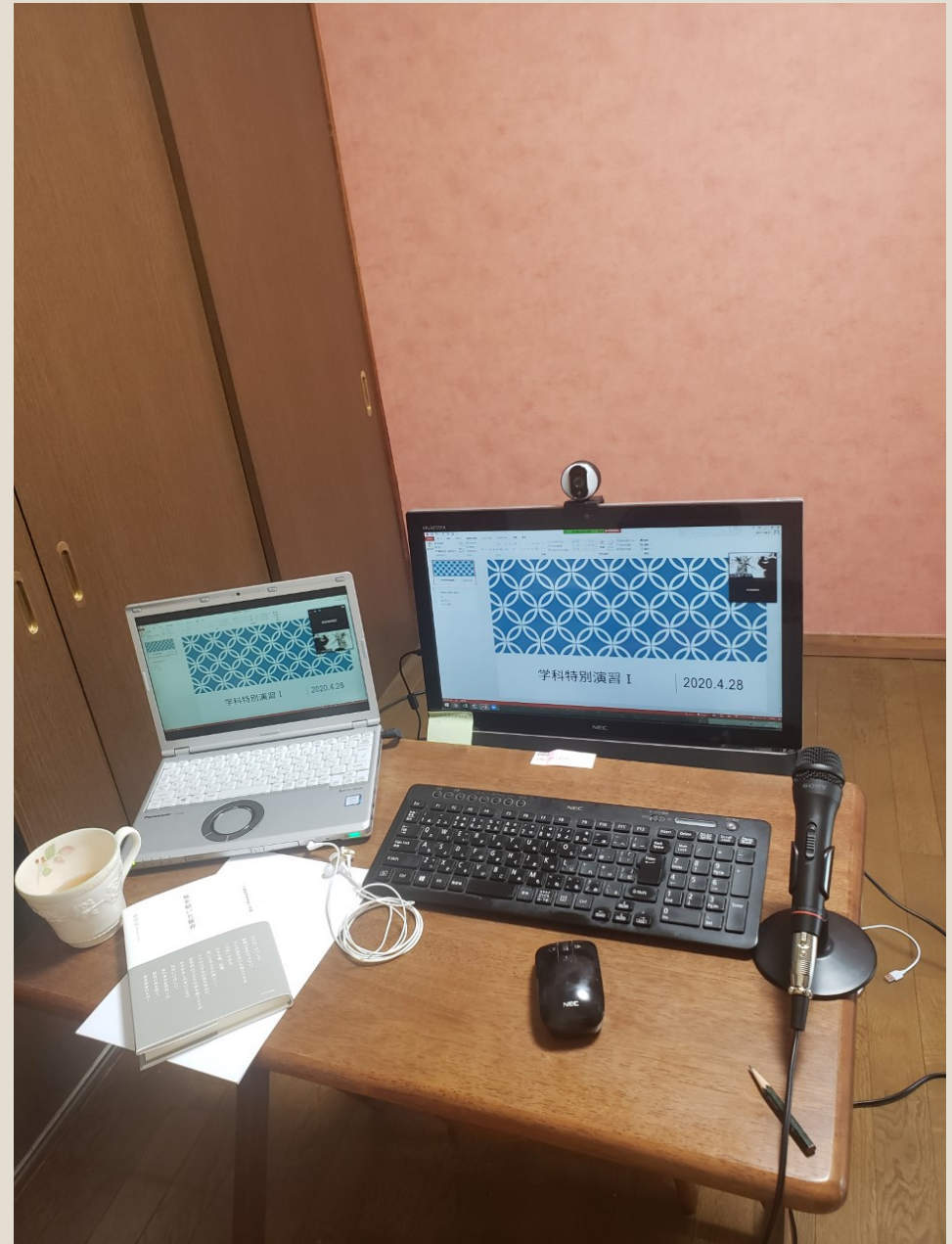
- 4月7日（火）、新型インフルエンザ等特別措置法第32条第1項に基づく緊急事態宣言が発令され、これに伴い、兵庫県から同日に、県内大学に対する緊急事態措置として、5月6日までを臨時休業（面接授業の休講）とする旨の要請があった。
- オリエンテーションは全て中止となった。

授業は、以下の通り実施する事となった。

- ①**4月20日（月）**から**5月6日（水）**までの期間は、2年生次以上を対象とした開設科目をメディア授業（遠隔授業）で行う場合のみ実施し、それ以外の科目にあっては、休講・補講とする。
- ②メディア授業（遠隔授業）受講の環境が整わない学生に対しては、補講を行う。
- ③1年次生対象の開講授業科目の開始日は、**5月7日（木）**となった。
- ④緊急事態措置の有効期間中にあっては、学外（臨地）実習は実施しない。

4月23日（木）時点

5月末まで、メディア授業とする事が決定する。



Zoom webinar

- 授業開始時刻に全員が揃わない。
- 初期の頃は、接続トラブルで出席ができない人が必ずいる。
- 通常の教室の授業より疲れやすい。

＜大人数Zoom授業＞

- 自分がクラスの一員であると感じにくく、学習意欲が停滞しやすい。
- 質問をしてもいいタイミングがわからない。

★質問のルールを講師が決めると良い。気づいたことがあればいつでもチャットに入力していいのか。質問タイムに入力すべきなのか、手を挙げるべきでないのか、それらの質問はどのタイミングで回答してもらえるか、など。さらに、受講者同士のやりとりをチャット上で行うことを推奨する場合は、それも一言伝えると、活用しやすくなりなる。受講者同士で回答できるものがあれば、講師が回答する時間が削減される。

◦ 講師が画面共有するスライドを見せる場合、受講者は見逃したところや確認したいスライドに戻れない。

★PDF化して資料を受講者に（可能なら前日までに）共有できると良い。

スライドを活用しない講義は集中力がきれやすい。

<少人数Zoom授業>対話・講論

全体でのディスカッションでは、発話タイミングが難しい。

★「手を挙げる」機能を使って講師が指名、関連することや質問に対する反応は手を挙げずに回答してもいい、1～3行程度ですむコメントはチャット機能で共有、話題に関連するリンクなどもチャット機能で共有、話題に関連するリンクなどもチャット機能で共有などが行える。

慣れるまでは、教室での発話よりも緊張する。

★リアクション機能やチャットの活用や、画面上でも相槌を打つなど、「聞いてるサイン」を出すことを促していけると、安心して発表できると思う。また、慣れるために、発表よりも前の段階で、自己紹介など少しでも全員の前で発話する機会が設けられるとベストだと思う。

。ブレイクアウトルームで議論するだけでは不十分。

⇒全員に考えさせ、発話させるには最大4~5人のブレイクアウトルームに分けることが効果的だった。講師はブレイクアウトルームを行き来し、議論の内容を聞いたり、質問に答えたりすることが可能。しかし、教室と違い、一度に1つのグループの雰囲気や内容しか把握できないため、議論にズレが生じている場合でも軌道修正しにくい。受講者もその議論であっているのかわからないこともある。なお、ブレイクアウトルーム中は講師がいないことが多く、質問ができない。

★ブレイクアウトルームで議論を行う際、それぞれホワイトボード機能や別のファイルに議事録を取り、全員の授業に戻った際に各グループの代表者が内容を発表している。不明点、質問がある場合もその時点で共有できるので、ズレが生じていた場合はわからないことがあった場合でも、このタイミングで解決している。

- なお、ホワイトボードはブレイクアウトルームから退出するタイミングで消えてしまう。全体に後から共有する場合も、議事録をメモとして参照しながら、口頭のみで発表する場合も、スクリーンショットを撮っておくことが必須。ワードなどにメモした方が、消えるリスクを避けられる。

- ミュートのオンオフの切り替えを忘れやすい。

★設定でスペースキーを長押ししている間だけミュート解除することが可能。

◦ その他

◦ 図書館が閉まっております、アクセスできる資料が限られています。

★著作権の侵害にならない範囲/手段で参考図書を共有、オンラインでの検索方法の紹介、ネットリテラシー教育、などはこれまで以上に大事になってくる。

目が疲れやすい、肩こりになりやすい。